

## チャレンジ！！オープンガバナンス 2024 市民／学生応募用紙

<b>自治体提示の地域課題名</b> (注1)	No.	<b>自治体提示の地域課題名</b> 庄内コラボセンターを核とした南部地域の活性化の実現に向けて	<b>自治体名</b> 豊中市
<b>チームがつけたアイデア名(公開)</b> (注2)	ヤギでつながる・ヤギから考える町のこれから		

(注1) 地域課題名は、COG2024 サイトの中に記載してある応募自治体提示の地域課題名を記入してください。

(注2) アイデア名は各チームで独自にアイデアにふさわしい名前を付けてください。これは自治体提示の地域課題名とは別です。

### 1. 応募者情報 下の欄のうち選択肢項目は右のドロップダウンで選んでください

<b>チーム名(公開)</b>	庄内ヤギ部		
<b>チーム属性(公開)</b>	1. 市民、2. 市民／学生混成、3. 学生 <span style="color: red;">ドロップダウン選択→</span>	3.混成	
<b>チームメンバー数(公開)</b>	7名		
<b>代表者(公開)</b>	太田 朱音		
<b>メンバー(公開)</b>	梶矢 悠太、浅野 うたな		

**【注意書き】※ 必ず応募前にお読みください。**

#### ＜応募の際のファイル名と送付先＞

- 応募の際は、ファイル名を COG2024\_応募用紙\_具体的チーム名\_該当自治体名にして、COG2024 のウェブサイトにある【応募フォーム】からアップロードしてください。

#### ＜応募内容の公開＞

- アイデア名、チーム名、チーム属性、チームメンバー数、代表者および公開に同意したメンバー氏名（[メンバー一覧ページ](#)を参照）、「アイデアの説明」は公開されます。
- 公開条件について：  
「アイデアの説明」でご記入いただく内容は、クリエイティブ・コモンズの CC BY(表示)4.0 国際ライセンスで、公開します。ただし、申請者からの要請がある場合には、CC BY-NC(表示—非営利)4.0 国際ライセンスで公開しますので、申請の際にその旨をお知らせください。いずれの場合もクレジットの付与対象は応募したチームの名称とします。  
(具体的なライセンスの条件につきましては、<https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/legalcode.ja> および <https://creativecommons.org/licenses/by-nc/4.0/legalcode.ja> をご参照ください。また、クリエイティブ・コモンズの解説もあります。<https://creativecommons.jp/licenses/>)
- 上記の公開は、内容を確認した上で行います。(例えば公序良俗に違反するもの、剽窃があるものなどは公開しません)
- この応募内容のうち、「自治体との連携」は、非公開です。ただし、内容に優れ今後の参考になりうると判断したものは、公開審査後アドバイスの段階で相談の上公開することがあります。

#### ＜知的所有権等の取扱い＞

- 「アイデアの説明」中に、応募したチームで作成・撮影したものではない文章、写真、図画等を使用する場合、その知的所有権を侵害していないことを確認してください。具体的には、法令に従った引用をするか、知的所有権者の許諾を取得し、その旨を注として記載してください。「自治体との連携」中も同様をお願いします。
- 「アイデアの説明」中に、人が写りこんでいる写真を使用している場合、使用している写真に写りこんでいる人の肖像権またはプライバシーを侵害していないことを確認してください。

アイデアの説明が肖像権・著作権等を侵害していないことを確認してください。OKなら右欄の○を選択 →

OK

#### ＜チームメンバー名簿：[メンバー一覧ページ](#)＞

チームメンバーに関する情報を該当ページに記載して提出してください。(2. の扱いによる代表者氏名を除き、他のメンバーに関する情報は本人の同意があるものを除き COG 事務局からは非公開です。詳細は最終ページをご覧ください。)

**アイデアの説明は(1)アイデアの内容(活動)、(2)アイデアの理由(なぜなら)、(3)実現までの流れ、の三項目あります。それぞれ書いてください。必要に応じて図表を入れていただいて結構です。**

## 2. アイデアの説明（公開）

### (1) アイデアの内容（公開）

#### (1) アイデアの内容（公開）

アイデアは、対象とする課題解決のために、**どのような社会的活動（サービス）を行うのかを具体的に示してください。**将来実現した場合に、**新規性があり、実践したくなり、魅力的でワクワクするようなアイデア**を求めます。その結果、**課題が解決され、社会に良い変化をもたらすことが期待されます。**2 ページ以内でご記入ください。

※応募チームとして**解決したい課題のポイント**を、以下にごく短く書いてください

<解決したい課題のポイント>

庄内に住む人たちに、包摂的社会的実現について身近なところから考えてほしい。

※以上の課題解決のために『**何**』をするアイデアか、それを『**だれ**』が『**だれ**』に対して『**いつ**』『**どこで**』『**どのように**』行うのか、受益者自身が主体的に関わる視点も視野に入れてわかりやすく書いてください。アイデアが具体的に実行される場面を想定し、説明をお願いします。

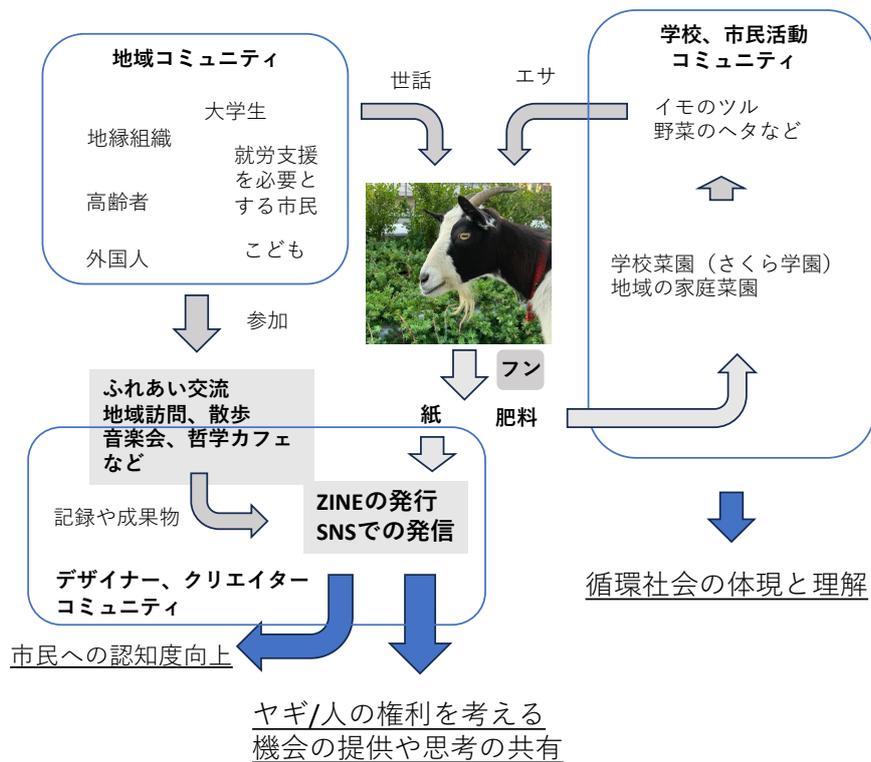
(参考)よいアイデアを生むには関連データの分析に加えてデザイン思考によるアイデアを利用する人への共感(使う人の立場になってみる)が大切です。

<提案するアイデアの内容>

庄内コラボセンター(シヨコラ)に1ヶ月間ヤギを放羊する。その間、市民が実際に世話をしたり、地域の様々なコミュニティにヤギを派遣し、お世話を体験しながら身体性と結びつけるだけでなく、哲学カフェや演劇のワークショップなどにより地域住民にも応用していく。それにより社会的マイノリティを含めた包摂型社会の実現、つまりより良い暮らしに向けて、市民らがより自分事として前向きに取り組むことができると考える。

以下の図が示すように、それらは複数のコミュニティによって循環し、多様な市民はそれぞれの得意な分野で以って地域に貢献し、役割を担う。

アクティビティとコミュニティの関係図



Blank area for the idea content.

## 2. アイデアの説明（公開）

## (2) アイデアの理由（公開）

### (2) アイデアの理由（公開）

次にアイデアを提案する理由（なぜ）について、それをサポートするデータを根拠として示しつつ2ページ以内で説明してください。ここではアイデアの必要性、効果を確認します。データとは、統計類などの数値データやアンケート・インタビュー・経験の記述、関連の計画、既存の施策などの定性データも広く含みます。データは出所を明らかにしてください。

※このアイデアを提案する理由（なぜ）を書いていきます。

※先に書いた『何を』『だれが』『だれに対して』『いつ』『どこで』『どのように』というアイデアの内容を支えるために、『なぜ』このアイデアが有効で、実現する意味があるのか』を、上記のデータを使ってわかりやすく説明します。

<参考：以下のように理由を書いていきます>

※根拠：このアイデアがなぜ必要であるか、またはなぜ有効だと考えるのか、その筋道を説明します。

※裏付け：その根拠を支えるために、統計データや報告書、事例などを使って補強します。さらに具体的なアイデアの効果についても、何らかのデータを使うと説得力が増すでしょう。（定性データを含めて歓迎）

発案者は、昨年度提出した案をもとに実際に地域でプロジェクトを行ったことで、ヤギがすでに地域のアイドル的存在として市民に親しまれつつあることを実感した。しかし昨年度提出した案と今年度の実践の間にはギャップも生じた。そこで、浮かび上がってきた課題の解決へ向けて上記アイデアを提案する。

昨年度提出のアイデア「ヤギは庄内の通奏低音」では、豊中市が提示した課題である「公共施設の活用を通じた他世代が輝くまちの実現」にアプローチするため、豊中市南部に位置する庄内コラボセンターショコラにヤギを招き、お世話やイベントを行うことを計画していた。

実際に2024年11月の約1ヶ月間、レンタルサービスを利用して奈良県から2匹のヤギを招き、「庄内ヤギ部」を設立した。メンバーは地域応援団、ショコラと隣接する小中一貫の義務教育学校 庄内さくら学園のPTA、大学生と教員、市民公益活動支援センターの職員らで構成され、毎日の餌やりや清掃やイベント運営を行った。

ステッカーの作成とその販売、二匹分の小屋作りを行い、イベントとしては複数回のふれあいと餌やりの体験会、似顔絵大会、ふれあい音楽会を実施した。ステッカーの売り上げをエサ代や、記録物(ZINE)の制作費に充てるなどして工面し、イベントはいずれも盛況に終わったが、課題も残る。

最大の課題は、対話の場を設けられなかったことである。当初の「地域コミュニティづくり」と「権利を考える」という大きく二つの柱のうち後者に思うように踏み込めなかったことも、対話の不足からなるものだと考えている。今年度実施のイベントの中には、庄内滞在中のヤギの生育環境やヤギの行動範囲などについて市民らが直接話し合う場や、「では果たしてこれが人の場合はどうか」とディスカッションをする機会等を設けることができなかった。

そこで今回は対話（必ずしも言語による対話に限らない）に重きをおき、言葉を持たないヤギのことを自分たちなりに知ろう・わかっていく過程から、わかり得ないことを知りながら相手の見えない背景を想像してみることも、もやもやをコンテインし続け向き合うこと、などといった実際の地域社会での生活に適応可能なスキルを高めていくことを目指す。

その具体的なアプローチの方法の一例として哲学カフェを挙げる。市民らがショコラに集まって複数回、テーマを変えて、ディスカッションをする。

## 2. アイデアの説明（公開）

### (2) アイデアの理由（公開）

テーマの例:「レアだから注目される。これって良いこと？」

→ヤギが毎年庄内にやってくるようになった未来、当初のような新鮮味を失いつつあるとき、市民はお世話やイベントに関心を持ち続けヤギを気にかけて続けられるか。

24 年度実施のイベントを更に工夫を凝らしながら引き続き行うとともに、上記例のような新たなイベントでより多くの市民を巻き込み、「一時的なヤギの住環境」について考えたことを「あらゆる市民が庄内で暮らしつづける」ことに応用することを目指す。

またイベントのみならず、運営のコアとなるメンバー同志の「対話」の充実や、実際に様々なコミュニティに出向いて、直接ヤギに接した人たちと「対話」を重ねること、記録物や SNS での発信を通じて問題を提起するなど様々なプログラムを展開していく。



### (3) アイデア実現までの流れ(公開)

アイデアを**実現する主体**、アイデアの**実現に必要な資源(ヒト、モノ、カネ)**の大きき規模とその現実的な調達方法、アイデアの**実現にいたる時間軸を含むプロセス**、実現の制度的制約がある場合にはその解決策を含め、アイデア実現までの**大きき流れ**について、**2ページ以内**でご記入ください。ここでは実現可能性を確認します。

※アイデアに即した実現に向けての**具体的活動**を上記の**ポイント**に即して工夫して書いていきます

<以下のように分けて書いていきます>

1. **実現する主体**
2. **実現に必要な資源(ヒト、モノ、カネ)**の大きき規模とその現実的な調達方法
3. **実現にいたる時間軸を含むプロセス**

#### 1. 実現する主体

庄内ヤギ部(大学生、PTA、庄内コラボセンター内の各団体、地域のデザイナー)

#### 2. 実現に必要な資源

●人: 大学生、高齢者、外国人、子どもなど様々なコミュニティを単位として、それぞれが所属する場所、人で興味のある人たちを誘うと同時に、庄内ヤギ部に参加してもらい、様々なイベントへの参加を募ることになる。また、イベントでは、アーティスト(ダンサーやミュージシャン)、ZINEを作成するデザイナーなど地域のクリエイターのコミュニティの参加を募る。

すでにヤギ部には編集者/デザイナーが所属しており、キャラクターのデザインやイラストのワークショップを行うなど活動をおこなっており、継続的な参加が見込める。

●モノ: 日常の世話をを行う上では・・・

・場所: ヤギが安心して(?)暮らせる場所の確保。今年度行われたように公共スペースなどが望ましい。

・エサ: 今年度の実施から、地域の人達、小学校からの寄付で賄える。

●カネ: 地域市民から寄付やクラウドファンディングなど

ただし、今年度の実施を通して、それほど多くの予算を必要としないため、ステッカーやバッチなどの販売、ZINEの売上などを使えば、エサの購入費やヤギのレンタル費、などの多くを賄うことも可能。

#### 3. 実現にいたる時間軸を含むプロセス

いずれもヤギがいる期間は1ヶ月程度を考えている。その中だけでなく、来る前、帰ったあとにもイベントが行われる。

・1年目: 実験的に地域への展開と循環のモデルづくり

今年度の実施を通して、ショコラでのヤギプロジェクトの認知度は高まった。そのためショコラでの活動を通じて、実際に展開していくための様々な取り組みを行う。

特に行いたいのは、地域コミュニティへの散歩など、住处としてのショコラから離れて地域の日常にヤギがいる風景を作り出すこと。またその過程で生まれるであろう課題を通して、動物(人)の権利を考えるフェーズに展開していきたい。

・2年目以降: ヤギ部による自治的な運営体制の構築

これまで豊中市がレンタルしていたが、2年目以降はヤギ部がヤギを借り、地域への放牧を行う。その中で行政のルールに縛られない自由な展開を図っていく。